



#01 あとむちゃん家のお話し

あとむが 教えてくれた こと。

6年前の春、私の愛犬あとむは、最後の日の朝まで私が作ったご飯を食べて、ぼかぼか暖かいお日様の下、母の胸の中で笑いながらお空に旅立ちました。

16歳4か月でした。

私の人生までも変えてくれた、あとむとの生活。そこには幸せいっぱいの日がありました。



(株) アトムヘルスラボ

ATOM'S KITCHEN 人とわんこの栄養士 梅田貴子

管理栄養士。ペット栄養管理士。ホリスティックケア・カウンセラー。人とわんこの栄養士として、無添加の手作りおやつや、わんこえり等のオリジナルグッズの販売を行う。また、人間の生活習慣病予防の為の指導や講話も行っている。

[HP]<https://atomskitchen2017.wixsite.com/atoms-kitchen>

21年前、三重県津市の実家に三か月の柴犬の男の子がやって来ました。強い子に育ちますように、あとむと名付けました。その頃、私は東京のレコード会社勤務。忙しいながらも、必ず月に2回はあとむに会いに三重へ帰りました。私が東京へ帰ってしまうと、あとむはいつも落ち込み、ご飯を食べなくなり、心配して電話をかけると、いつも電話口で文句を言って、受話器

を噛んで母を困らせていました。

わんこの時間は、私達よりも随分早く進んで行きます。12歳を超えた頃、変化が現れました。太りやすくなる。白内障。後ろ足が弱る。よく躓く。階段が上り下りがしにくい。人の気配に鈍感になる。寝る時間が増える。無表情になる。床においてあるご飯が食べにくい等。

散歩時は歩行用のハーネスを使用。わかりや



14歳の春。頭が右に傾き、口のゆがみもでてきました。今まで大好きだったボールも、興味を示さなくなりました。

(上)何を見ても興味津々。元気いっぱい6か月の頃。(下)年に3回は旅行に出かけました。あとむはお花が大好き。



すいよう壁際に食事台を設置し、ケガをしないように危険な場所はガード。まずは出来る事から始めました。

その頃から私の中で、最後の日まであとむの側で、見守ってゆきたいという強い気持ちが生まれ、会社を退職。最初の決断でした。

14歳をすぎると、頭が少し右に傾き、口のゆがみも出て、真つすぐ歩けなくなりました。

家の中を壁沿いに旋回する。視力も嗅覚もさらに落ち、いろいろな物に引っ掛かり動けなくなる。この頃から認知症が始まり、早いスピードで進行してゆきます。

ごみ箱に顔を突っ込んだり、私の指をおやつと間違えて思いっきり噛んだのもこの頃。一番の重大事件は、ロールスクリーンの鎖が首に絡まり、母が帰宅すると呼吸が荒く、もう少して命を落とすところでした。

おむつをつけ始めたのは、14歳の夏。この頃はペット用のおむつの種類が少なく、人間の赤ちゃん用のパンツタイプのおむつに、尻尾用の穴をあけて、ガムテープで加工し、手作りのおむつを作り、男の子用おむつをしてから手作りおむつと二重に装着しました。

14歳の秋になると、日本犬に多く見られる右回りの旋回が、エスカレートしてゆきます。母が座っている周りをグルグル歩いて回り、倒れると怒り、起こしてあげるとまた回り、すぐ倒れる。その繰り返し。昼と夜の逆転も始まり、この頃から介護の大変さを実感し、悩み迷う日々でした。すごく歩きたがっているのに、満足させてあげられないもどかしさ。人間も体力的に辛くなる。ネットで検索しても、解決策が見つからない。介護をスタートした飼い主さん達がまず悩む事ですよ。あの時、同じ気持ちを共有できる仲間がいれば、もっと楽だったのかも

れませんね。

また体内の変化もいろいろ起こり始めます。あまり動けなくなると、食欲も無くなり、さらに栄養の吸収も悪くなり、体重が落ち始めます。筋肉も落ち、後ろ足がとても痩せ細ってゆきました。血液、尿検査では腎機能の低下、脱水症状、貧血といろんな数値が悪くなり始めます。

シニア犬は肥満に注意しなければいけないけれど、さらに高齢になると、今度は太らせないといけないのです。体重100g増えるだけで母と大喜びし、50g減るだけで肩を落とす。そんな毎日でした。

1日でも長く生きて欲しい。出来る事は何でもしてあげたい。

まずは食事を変え始めました。腎機能が低下し、脱水症状もあるので、鰹だしや鶏肉でスープをとり、お肉は控えめで野菜や芋、ご飯を入れた水分とカリウム、鉄分、糖質の多い手作り食を作りはじめました。38度~40度程度の温度

15歳の始め頃。手足がだんだん痩せて、歩けなくなってきました。



15歳の誕生日を私の手作りのケーキでお祝い。

を好むので、必ず温めて。最初はスプーンで、それが難しくなるとペーストにし、ドレッシング容器に入れ口の横から少しずつゆっくりと与えます。6年前は、シニア犬の介護食もあまりなかったもので、高齢者用の高栄養補給ドリンクや、赤ちゃんの離乳食を、栄養成分や原材料を見ながら使用しました。

そして水分はしっかりと定期的に。わんちゃん体重の70%は水分です。体の水分が20%減少すると死亡してしまいます。あとむは脱水症状が出ていたので、定期的にシリンジ(注射器)で、口の横から少しずつ流しこむように与えました。わんちゃんの1日の必要水分量は、体重1kgあたり50ml。定期的に与える事が大事なのです。

そして一番大変だった事は、運動です。

右回りの旋回がスタートしてから、何か良い方法がないかと考え、最初に思いついたのがタオルを巻いた大きな陶器の壺でした。さらにその後、手ごろな円柱の椅子を見つけました。椅



15歳の春頃。この丸椅子をぐるぐる回るのがお気に入り。また筋肉も少しずつついてきました。

子の中の物入れに、ペットボトルの水を入れると運動器具が完成。実はこの器具を使って家の中で歩く時間が増えると、足に見事な筋肉がつき、食欲も増え、夜も疲れて寝ようになったのです。運動の大切さを、改めて実感しました。その後、さらに後ろ足が弱ってくると、その上に回転椅子を設置し、後ろ足用ハーネスを縫い付け改良。あとむはこの椅子をグルグル回っている時は、とても嬉しそうなのです。私と母が思いっきり褒めると、さらに嬉しそうに回るスピードが速くなります。かわいいですね。

今まであたりまえに出来ていた事が、ひとつひとつ出来なくなってゆく。悲しいですね。でも一生懸命なあとむの姿を見ていたら、出来なくなる事を数えるより、まだ出来る事があるのを喜ぼうって思えたのです。あとむがちゃんと私に教えてくれました。

15歳後半になると、もう歩く事もできず、寝たきりになりました。

でもうんちをすると教えてくれます。ご飯だって一生懸命食べてくれます。

いろいろ試しましたが、床ずれには羽毛掛布団を四つ折りにしたものが一番良かったように思います。前足の間には抱き枕。枕は低反発



丸椅子の上に戻転椅子をつけた改良版。

の物を使用しました。寝たきりになると、爪が伸びて自分を傷つけるので、爪を切ってあげる事も大事です。鼻がつまったり、耳の奥が化膿したり、おむつでかぶれたり、あとむも毎日大変です。でも私は、してあげられる事があればあるほど、毎日がとても幸せでした。

もう声を出す事も、ほとんどなくなってきたある夜。

一緒に寝ているあとむに問いかけました。

「お姉ちゃんの事、好き？」って。

そうしたら、小さい声で「あう」って。

これが私とあとむの最後の会話です。

あとむは精一杯生きました。私と母の手探りの介護。これでよかったのかどうか、わからないけれど、最後にお世話になったルナ動物病院の先生が、「ここまでがんばって生きたのは、お姉ちゃんのお食事のおかげですよ」と、言ってくれました。涙が出るほど嬉しかった。いつも一緒に喜び、悩みや心配事にも親身に相談にのってくださった先生。本当に感謝しています。

私があとむと最後にした約束。



16歳の年末。静かに眠る事が多くなりました。

それはわんちゃんの健康と幸せの為の仕事をする事。

あとむが虹の橋を渡った翌年。私はペット栄養管理士の資格を取得。そして2016年11月22日、あとむの誕生日に(株)アトムヘルスラボ ATOM'S KITCHENを設立。人とわんこの栄養士として活動をスタートしました。

私は一生懸命生きていた、あの最後のあとむが一番好きです。

あの時、私が欲しかった介護のために本当に必要な物や情報、共感してくれる人とのつながりを、未来のシニア犬のためにいつか形にしてゆきたいと思っています。

そう、お空のあとむと一緒に。



お空へ旅立つ1週間前のあとむ。



私の宝物。あとむとの最後の写真。